
日本図書館文化史研究会

ニューズレター

第 98 号 2006 年 10 月 16 日

日本図書館文化史研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黒浩司

■■ 目 次 ■■

日本図書館文化史研究会 2006 年度研究集会・総会、盛会裏に終了	2
『予稿集』頒布のお知らせ	
日本図書館文化史研究会 2006 年度第 2 回研究例会のご案内	3
オプションツアーのご案内	
日本図書館文化史研究会規約の改正について	7
2006 年度研究集会シンポジウム報告要旨	10
【図書館文化史研究 文献紹介】	
2006 年度研究集会個人発表要旨	12
研究例会発表募集のお知らせ	
『図書館文化史研究』23 号が刊行されました	14
『図書館文化史研究』第 24 号・『ニューズレター』原稿募集のお知らせ	
運営委員会通信	15
事務局だより	16
『ニューズレター』97 号と『会員名簿』の発送について	
会費納入のお願い	
会員動向	

日本図書館文化史研究会
2006 年度研究集会・総会、盛会裏に終了

2006 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会は、9 月 9・10 日の両日、甲南大学を会場に開催されました。今回の研究集会・総会には、昨年度の東京での研究集会を上回る 61 名（うち非会員 11 名）が参加し、たいへんな盛会となりました。

第 1 日目は、「もり・きよしー生誕 100 年ー」と題したシンポジウムを開催しました。志保田務氏の司会・進行のもと、石塚栄二氏、石山洋氏、宮内美智子氏の順に報告がなされ、その後フロアの参加者もまじえた討論が行なわれました。各報告者の報告要旨は 10～11 ページをご覧ください。また、このシンポジウムの模様は、『図書館文化史研究』第 24 号に掲載予定です。

シンポジウムの終了後は、甲南大学学友会館内の生協食堂で懇親会が実施されました。石井敦名誉会員の乾杯で開宴し、交流を深めました。懇親会の参加者は 30 名でした。

第 2 日は、個人発表 4 件と会員総会、運営委員会が行なわれました。個人発表の午前の司会を泉山靖人氏、午後を三浦太郎氏が担当しました。各発表の要旨は、12～13 ページをご覧ください。

個人発表終了後、会員総会が開催されました。会員総会では、小川徹氏を議長に選出し、事務局より 2005 年度の活動・決算報告と、2006 年度予算（案）が提案され、それぞれ承認されました。

次に「日本図書館文化史研究会規約」の一部改正案が提案され、承認されました。新しい「日本図書館文化史研究会規約」とその要点を、7～9 ページに掲載しました。

このほか創立 25 周年事業、来年度の研究集会などについて審議を行いました。参加会員からは、総会の開催方法についての意見・提案があるなど、活発な議論が行なわれました。

終わりにりましたが、このたびの研究集会・総会の開催に際しお世話になりました甲南大学の馬場俊明氏に、心よりお礼申し上げます。

（事務局 小黒記）

『予稿集』頒布のお知らせ

今回の研究集会・総会の『予稿集』を、実費（600 円）にて頒布します（A4 版・本文 51 ページ）。

郵送ご希望の場合、送料（390 円）を加えた、合計 990 円をそえて（郵券可）、送り先の郵便番号・住所・氏名を明記して、事務局まで申込んでください。

日本図書館文化史研究会

2006年度第2回研究例会のご案内

2006年度第2回研究例会を、豊橋市中央図書館のご協力をいただいて、下記のように実施することになりました。また例会終了後には、交流会を開催予定です。多くの方の参加を期待します。

記

- 日 時： 2006年12月2日(土) 14時～16時15分
- 会 場： 豊橋市中央図書館 3階 第2・第3会議室
(豊橋市羽根井町48番地)
- 交 通： JR新幹線・東海道本線、名鉄線「豊橋」駅下車
豊鉄バス 西駅前より 牟呂線往完町まわり(81系統) /
神野ふ頭線(82系統) 中央図書館前下車5分
豊鉄バス 豊橋駅前より 小浜大崎線(11・12系統) 汐
田橋下車
西口より徒歩20分、または豊鉄バス乗車
◆ 5ページに豊橋駅案内図、6ページに中央図書館近辺
図、新幹線とバスのダイヤを掲載しました
<http://www.library.toyohashi.aichi.jp/guide/index.html>
- 参加費： 500円
懇親会参加費 5,000円
- 申込方法： 事前申込制とします。当日参加はご遠慮ください。
次の事項を明記して、下記まで、はがき、ファックス、または
電子メールでお申込ください。
氏名(ふりがな)・所属・懇親会参加の有無・宿泊斡旋希望
の有無・オプションツアー参加の有無
- 申込先： 〒321-3295 宇都宮市竹下町908
作新学院大学 司書・司書教諭課程 小黑 浩司
電子メール：oguro@sakushin-u.ac.jp
ファックス：028-670-3671
- 申込締切：11月5日(日)(必着)でお願いします。
- プログラム
14:00- 中央図書館 3階第2・第3会議室集合
14:10-14:15 館長挨拶
14:15-15:00 講演会「羽田八幡宮文庫について」
田崎哲郎氏(愛知大学名誉教授)、または鈴木光保氏(羽田野
敬雄研究会代表)

15:15-15:30 和装本ボランティア及び旧蔵書見学

15:30-16:15 羽田八幡宮へ移動、文庫址見学

17:00-19:00 懇親会（参加費 5,000 円）

※ 会場： ウェステージ豊橋内是々庵

豊橋市白河町 50 TEL 0532-34-0505

豊橋駅西口より徒歩 3 分

<http://www.westage.co.jp/>

- ◆ 中央図書館→羽田八幡宮→ウェステージ豊橋の移動は、バスでおこないません。

宿泊の斡旋について

今回の例会については、宿泊の斡旋を行いません。なお、懇親会会場からホテルまでの移動は、送迎バスがあります。

○ 斡旋宿泊先 ジェントリーホテル豊橋

豊橋市札木町 66 の 1

TEL 0532-53-8811(代) FAX 0532-53-8810

<http://www10.ocn.ne.jp/~gently/>

○ 宿泊料金 5,670 円（朝食は別途 630 円）

宿泊の斡旋を希望される方は、例会の申込とあわせて、事務局までお申し出ください。直接ホテルに宿泊の予約をされた場合、上記の特別価格は適用されませんので、ご注意ください。

オプションツアーのご案内

上記第 2 回研究例会の翌日に、田原市図書館の見学会を実施します。あわせてのご参加を期待します。

1. 日 時： 12 月 3 日（日）午前 10 時～12 時
2. 場 所： 田原市図書館
3. 内 容： 田原市図書館見学

<http://www.city.tahara.aichi.jp/section/library/>

4. ご 案 内： 森下芳則館長
5. 集合時間： 午前 9 時
6. 集合場所： 豊橋鉄道渥美線・新豊橋駅改札前

5 ページの地図を参照してください。

<http://www.toyotetsu.com/index-frame.html>

◎ 中央図書館周辺図



◎ 新幹線とバスのダイヤ

◆ 新幹線（下り）

東京 10時56分発 こだま 539号 豊橋 13時18分着
 東京 11時36分発 ひかり 371号 豊橋 13時01分着
 （新横浜停車）

◆ 新幹線（上り）

新大阪 11時23分発 こだま 536号 豊橋 13時06分着
 新大阪 11時43分発 ひかり 370号 豊橋 13時19分着
 （新大阪・名古屋間、各駅停車）

◆ 豊鉄バス

西駅前（ヤマサちくわ西駅前） 牟呂線往完町まわり（81系統）
 13時15分発 13時45分発 中央図書館前下車5分
 豊橋駅前 小浜大崎線（11・12系統）
 13時28分発 汐田橋下車徒歩5分

日本図書館文化史研究会規約の改正について

このたび運営委員会では、「日本図書館文化史研究会規約」の一部改正案を起草し、『ニューズレター』97号に掲載の上、9月10日に開催された会員総会に提案しました。

会員総会では、まずこの規約の一部改正案の要点を、事務局より説明し、総会参加の皆さまにご審議いただきました。その結果、この改正案は、提案どおりご承認をいただき、即日施行となりました。

以下に、一部改正となりました「日本図書館文化史研究会規約」を掲載します。下線部分が、今回改正部分です。

今回の規約改正の要点は、「賛助会員」制度の導入です。従来、本研究会の会員は個人会員のみでしたが、規約改正によって、本研究会の目的および事業に賛同する組織・団体の加入が可能になりました。

具体的には、図書館情報学・司書課程の研究室、図書館関連の企業などを、賛助会員として想定しています。入会を希望する団体の方、あるいは現在の個人会員から賛助会員への変更を希望する方など、事務局までご連絡ください。

なお賛助会員の年会費は、一口 3,000 円です。

日本図書館文化史研究会規約

第1章 総 則

第1条 本会は、日本図書館文化史研究会（Japan Association of Library and Information History）と称する。

第2条 本会の事務所の所在は、原則として、運営委員会の定める機関におくものとする。

第2章 目的および事業

第3条 本会は、図書館文化史とそれに関連する諸部門に関する研究およびその研究者相互の協力を促進するとともに、外国の関係学会との連絡を図ることを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1 研究者の連絡および協力促進
- 2 研究会および講演会の開催
- 3 機関誌、その他図書等の刊行
- 4 「ニューズレター」の定期的発行
- 5 外国の関係学会との連絡および協力

6 前各号のほか、運営委員会において適当と認めた事業

第3章 会 員

第5条 本会の会員となることができる者は、次の各号に定める資格を有する者で、運営委員会の承認を得た者とする。

- 1 大学等の教育研究機関において図書館文化史に関連する分野を専攻する者またはこの分野に関心をもつ研究者
- 2 図書館実務に携わり、図書館文化史に関連する分野に深い関心を抱く者
- 3 前2号のほか、図書館文化史に関心をもつ市民で、運営委員会が会員としてふさわしいと認めた者

第6条 会員となろうとする者は、本会事務所あてその意思を証する書面を提出しなければならない。

第7条 本会に、名誉会員をおくことができる。名誉会員は、運営委員会の推薦にもとづき、総会において決定する。

第8条 会員は、名誉会員を除き、総会の定めるところにより、会費を納めなければならない。

- 2 会費は年 3,000 円とする。

第8条の2 本研究会の目的および事業に賛同する組織、団体は、賛助会員となることができる。賛助会員は、運営委員会が推薦し、総会の承認を得るものとする。

- 2 賛助会員の会費は、年会費として一口 3,000 円とする。

3 賛助会員は代表者を指定し、代表者は、本研究会の運営につき、5条に定める会員と同等の権利を行使できる。

第9条 会員（賛助会員を含む）は、本会の機関誌、ニューズレターの無料配布を受ける。

第10条 会員は、次の場合には、退会したものとする。

- 1 本人が退会を届け出たとき
- 2 会費を連続2年間滞納し、会員にとどまる意思が明確でないと運営委員会が判断したとき
- 3 本条は、賛助会員に準用する。

第4章 機 関

第11条 本会に次の役員をおく。

- 1 代 表 1名
- 2 運営委員 15名以内
- 3 監 事 2名
- 4 事務局長 1名
- 5 編集委員 若干名

第12条 運営委員および監事は、総会において選任する。

- 2 代表は、運営委員会において選任し、総会の承認を得る。
- 3 事務局長および編集委員は、運営委員会において互選する。

第13条 前条の役員の任期は、原則として、総会により選任、承認された翌

年の4月1日から満3年とする。

2 補欠の役員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

3 役員は、再任されることができる。

第14条 代表は、本会を代表する。

2 代表が故障のある場合には、代表の意向を尊重し、運営委員会において代表代行を選任する。

第15条 運営委員は、運営委員会を構成し、会務を執行する。

2 運営委員会は、事務局長に日常的会務の執行を委任するものとする。

3 事務局長は、円滑な会務遂行のために、事務局次長1名を委嘱することができる。

第16条 監事は、会計および会務執行の状況を監査する。

2 会計年度は、4月1日から翌年の3月31日とする。

第17条 運営委員会は、毎年1回、通常総会を招集しなければならない。

2 運営委員会は、必要があると認めるときは、いつでも臨時総会を招集することができる。

3 会員総数の5分の1以上の会員が、会議の目的を明示して請求したときは、運営委員会は臨時総会を招集しなければならない。

第5章 規約の変更および解散

第18条 本規約の変更には、総会の議決を必要とする。

第19条 本会の解散は、運営委員会または総会員の5分の1以上の提案にもとづき、総会出席会員の3分の2以上の賛成を得なければ、これを行うことができない。

付 則

1 本規約は、1995年9月10日より施行する。

2 1995年度総会るとき、図書館史研究会の会員である者は、本規約の発効とともに、日本図書館文化史研究会の会員となる。

3 1995年度総会において、選任、承認された役員の任期は、1995年9月10日から1998年3月31日までとする。

付 則 (2003年9月21日)

1 本規約は、2003年9月21日より施行する。

付 則 (2006年9月10日)

1 本規約は、2006年9月10日より施行する。

2006 年度研究集会シンポジウム報告要旨

報告①

石塚 栄二

○ 報告題名

NDC の誕生とその成長過程を巡って

○ 報告要旨

NDC の成立以前の分類法と比較して、NDC が最初から標準分類法となることを目標として編纂されたこと、そのころの標準分類法に関する館界の議論を紹介し、また、NDC の成立に与えた直接の影響には、DC 研究者であった乙部泉三郎氏との出逢い、満鉄奉天図書館長であった衛藤利夫氏の著作による教示、間宮不二雄氏の示唆と間宮文庫整理に伴う DC 適用の実務経験があることを指摘した。NDC の改訂増補に関係した青聯の NDC 研究委員会の成立とその意義には、戦後に誤った評価がある。

NDC の戦前における普及は、2 版の序説に 1931 年ころ 25 館とあるが、水野氏は 42 館と述べるなど異説がある。しかし、採用館は徳島県立を例外としていずれも新設館であって、既設館を含めての普及は、加藤宗厚氏の努力による戦後のことであった。

報告②

石山 洋

○ 報告題名

国立国会図書館 (NDL) 時代のもり・きよし

○ 報告要旨

1946 年中国から帰国したもりは、上京し帝国図書館に就職、同館蔵書の NDC 分類配架の前線に立つが、民主化の流れで組合役員に選ばれ、採用の恩義ある岡田温氏と対立、合併した NDL に迎えられない。他方、加藤宗厚氏の尽力で『学校図書館の手引き』に採択され、米使節ダウンズ勸告で NDL でも和書分類表に指定され、NDC はもりの個人的仕事から館界の公器化し JLA へ移管された。もりは JLA 分類委員長の主席委員を約束され新訂 6・8 版で担当した。統合された NDL は 1960 年代 NDLC に変更する。もりも同表作成委員に加わったが、主導的立場ではなかった。ただし NDL では『日本全国書誌』の分類に NDC を引き続き採用していることも留意されるべきである。

1966 年主任司書に昇任、明治百年記念事業『明治期刊行図書目録』の編纂主任に挙げられ、未公開図書を含む 12 万件再整理に目途をつけ、NDL 勤務 25 年で 72 年定年退職した。

その他、目録の簡素化、司書講習や JLA の諸事業での活動にも触れた。

報告③

宮内 美智子 (東京医療保健大学)

○ 報告題名

恩師もり・きよし先生の遺徳—青葉学園短期大学時代—

○ 報告要旨

もり・きよし先生の1971年(昭和46年)から1987年(昭和62年)までの図書館学教授時代の活動について、下記6点を中心に報告した。

①青葉学園短期大学図書館学課程(司書・司書教諭)・図書館(図書館長)の運営。②青葉学園短期大学司書教諭公開講座(7科目8単位)の運営。③東洋大学等での司書養成教育。④私立短期大学図書館協議会の設立と会長としての活動。④最後となった『日本十進分類法新訂8版』の編纂姿勢と実行。⑤もり・きよし先生の喜寿記念出版・祝賀会。⑥もり・きよし先生の人生回顧。

【図書館文化史研究 文献紹介】

『大倉山論集』第52輯 「特集 大倉邦彦の図書館事業」について

『大倉山論集』第52輯では、標記のように「大倉邦彦の図書館事業」と題する特集を組み、次のような論著を掲載しています。

特集にあたって	大倉精神文化研究所
図書館の備品・用品：図書館サービスの不可欠の道具として	竹内 哲
大倉精神文化研究所所蔵・五輪堂類縁資料紹介	池田 孝
大倉精神文化研究所と国立国会図書館：支部図書館制度の中の大倉山文化科学図書館(一九五一～六〇)	中林 隆明
歴史的図書館用品展：第八回大倉精神文化研究所所蔵資料展	打越 孝明

本研究会では、昨年度第1回の研究例会で、大倉精神文化研究所の見学会を開催し、同所所蔵の貴重な図書館用品などを見学する機会を得ました。また、同じく昨年度の研究集会では、歴史的な図書館用品に関するシンポジウムを開催しました。

この特集に掲載されている論著は、歴史的な図書館用品の保存と、これに係わる大倉精神文化研究所の歴史を知る上で、必読文献といえます。一読をお勧めします。(事務局 小黒記)

『大倉山論集』第52輯 (大倉精神文化研究所、2006.3 ISSN 0471-5152)

2006 年度研究集会個人発表要旨

発表①

名城 邦孝（筑波大学図書館情報メディア研究科博士後期課程）

○ 発表題名

18 世紀前半フランス王室図書館の歴史—ジャン・ポール・ビニョンの図書館政策—

○ 発表要旨

今回の発表では王室図書館について、18 世紀前半の発展を当時の図書館長ジャン・ポール・ビニョンという人物を中心に、彼の図書館での活動とそれ以前の様々な文化機関における活動に検討を加えることにより、明らかにした。

前半では、ビニョンが図書館長になる以前のアカデミーにおける活動や、検書籍局、ジュルナル・デ・サボンで果たした役割について簡単に述べた。これらの活動が後に王室図書館の仕事に役立てることになったのだ。

後半では、ビニョンの図書館での活動について、図書館以前の活動との関連から考察を加えた。それらの考察から、ビニョンは王室図書館の改革者として現代まで続くフランスの国立図書館の基礎を作ったということを示すことができた。

発表②

松崎 博子（筑波大学図書館情報メディア研究科博士前期課程）

○ 発表題名

ジェシー・H・シェラについて—分類に対するシェラの見解を中心に—

○ 発表要旨

シェラは、資料組織化に関する著作を数多く残した。シェラは、ライブラリアンシップの本質は資料と利用者を効率的に媒介することであり、これは全館種のライブラリアンに共通する、と考えていた。そして、これを実行するためには‘特定の利用者集団の観点に立つ資料組織化’が求められるとシェラは考えていたように思われる。シェラが資料組織化の基礎であると捉えていた分類、それについて書かれたシェラの多くの著作を検討した結果、シェラは、書架分類、書誌分類を超えた、特定利用者集団のための実用分類の作成、そしてそれを実行できるライブラリアン像を展望していたのだとわたしは思う。また、シェラの分類についての思想を十分に理解するためには、シェラの生き様を知る必要があると考えており、彼の経歴についても言及した。

発表③

鞆谷 純一（徳島県立名西高等学校）

○ 発表題名

満洲開拓地読書運動—中田邦造と石川県の教師達—

○ 発表要旨

中田邦造（1897-1967 年）と石川県の教師達（東田平治、堂前貢、川辺甚松）

が取り組み、失敗に終わった満洲開拓地読書運動についてとりあげた。前段階として、石川県における読書運動の始まりから説き起こし、移民大国・石川県の諸相、開拓地における図書への渴望、満洲図書館協会を中心とした開拓地への図書寄贈運動などを紹介した。

開拓地読書運動は、日満両国で設立された「財団法人満洲開拓読書協会」（日本では1943年11月発会）と、「芝富読書指導者養成所」（静岡県芝富村）の開所で本格化するが、短期間で機能を停止してしまう。

論者は、中田邦造らの書簡を分析することによって、「満読」解散の原因が満洲からの研究生の「所規紊乱」にあると共に、養成所内の人間関係も関係していたと述べた。「満読」のことが戦後ほとんど公にならなかったのは、その解散経緯にあったものと考えられる。また、開拓地読書運動の失敗は、戦後の読書運動にとって、「負の歴史」になったと思われるが、こうした「賞賛」ではない歴史事実の発掘も必要ではないだろうか。

発表④

藤野 寛之（愛知淑徳大学大学院博士後期課程）

○ 発表題名

W・A・マンフォード（1911-2002）のイギリス図書館史研究

○ 発表要旨

イギリスの図書館史研究者W・A・マンフォードが著作で取りあげた人物（エドワード・エドワーズ、ルイス・スタンレイ・ジラスト等）は、必ずしも恵まれた立場になく、反抗と苦悩の一生を貫いた人物である。このことは著者が国立視覚障害者図書館を運営していた立場と無縁ではないであろう。また、その著作には方法論においても共通点がある。①時代の特徴を的確につかむため、かなりな文言を費やしている。②引用の多さである。例えば『エドワード・エドワーズ』では1500以上の引用があり、その引用は日記、書簡を主としている。マンフォードの著作、特に伝記作品は、図書館員の伝記執筆の一手法を示唆するものであり、それらは、リットン・ストレイチーの著作やDNB、ODNB等、イギリス伝記文学の伝統にのっとっている点で傑出している。

研究例会発表募集のお知らせ

本研究会では、毎年度3回（6月頃、12月頃、3月頃）に研究例会を実施しています。研究例会での発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記の事務局までお申し込みください（発表時間は質疑応答を含め1件1時間程度）。

- 氏名（所属）
- 連絡先（住所、電話、メールアドレス等）
- 発表題目
- 発表要旨（200字程度）
- 発表希望場所（例：関東、関西）

『図書館文化史研究』23号が刊行されました

機関誌『図書館文化史研究』第23号が、9月に刊行されました（本文：123ページ、本体価格：2,200円）。目次は以下のとおりです。

会員の皆さまには、9月中旬に発送済みです。未着の方は、事務局までご連絡ください。

○ シンポジウム 図書館用品 その保存と活用

シンポジウム開催の趣旨	中林 隆明
図書館用品の標準化－図書館協力への展望のもとで	竹内 哲
歴史的図書館用品の調査・収集事業	木原 祐輔
明治期図書館の閲覧用テーブル、出納台、書架をめぐる話題少々	小川 徹

○ 論文

三好高等女学校「婦人図書館」－学校図書館の先覚者・高津半造－	梶谷 純一
--------------------------------	-------

○ 研究ノート

華中鉄道図書館－森清（もり・きよし）の上海時代－	米井勝一郎
米国メリーランド州におけるカウンティ・ライブラリー・システム導入と館外サービスの展開（1898-1916）－ワシントン・カウンティの事例から－	中山 愛理

『図書館文化史研究』第24号原稿募集のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第24号の原稿を募集中です。
原稿の締切は2006年12月末日です。ふるってご投稿ください。
なお、この件に関するお問い合わせ、ならびに原稿の送付先は別記事務局までお願いします。

『ニューズレター』原稿募集のお知らせ

ニューズレターの原稿を常時受け付けています。
次号（99号）掲載を希望される場合、2006年12月末日までに別記事務局まで原稿をご送付ください。
今後ニューズレターで、図書館文化史研究に関わる文献・情報を速報していきたいと思っております。会員・非会員の問わず、関連業績を事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願いします。

運営委員会通信

■ ■ 次回運営委員会について ■ ■

従来運営委員会は、研究集会・研究例会同所・同時に開催してきましたが、次回の場合、研究例会と同所・同日の開催が困難となりました。このため、1月下旬に別途運営委員会を開催する予定です。

運営委員会の日程等が決定次第、研究会のウェブサイトに掲載し、会員の皆さまにお知らせします。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

また、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

記

- 内 容
1. 2006年度第3回研究例会について
 2. 2007年度研究集会・総会について
 3. 25周年記念事業について
 4. 『図書館文化史研究』第24号について

ほか

■ ■ 前回運営委員会の報告 ■ ■

実施日：2006年9月10日
場所：甲南大学 2-11 講義室

以下のような事項について、協議しました。

1. 2006年度研究集会・会員総会について
2. 『図書館文化史研究』第23号について
3. 2006年度収支見通しについて
4. 「日本図書館文化史研究会規約」の一部改正について
5. 2006年度第2回研究例会について
6. 2006年度第3回研究例会について
7. 『ニューズレター』第97号について
8. 『ニューズレター』第98号について
9. 西日本図書館学会との共催について
10. 2007年度研究集会・総会について
11. 25周年記念事業について
12. 会員動向（新入会）
13. 次回運営委員会について

事務局だより

■■ 『ニューズレター』97号と『会員名簿』の発送について ■■

『ニューズレター』97号と『会員名簿』を8月1日に発行・発送しました。今回の発送については、民間のメール便を使用しました。未着、汚損等の問題が生じた方は、事務局までご連絡ください。

■■ 会費納入のお願い ■■

2006年度会費をまだ納入されていない方には、封筒に「会費振替用紙在中」の朱印を捺し、振替用紙と会費納入のお願いの文書を同封しました。至急ご送金ください。

■■ 会員動向 ■■

個人情報保護の観点から、今後本欄では、新入会員（会員名・所属・研究分野）、会員の所属変更（会員名・新所属）、退会者（会員名）の各項のみを掲載することとしました。

・
・